

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

咲 S a k i 長野の夜鷹

### 【作者名】

品吉

### 【あらすじ】

個人戦全国大会三位の辻垣内智葉の妹、辻垣内葵は姉と戦う為にと臨海女子へと進学しなかった。そして長野の高校へと進学していった彼女が織り成す麻雀の物語。

---

原作が終了していない為、オリジナル設定が入ります。

オリキャラが数人います。

主人公の性格が見ててイライラします。

## プロローグ

「なあ、葵」

「何、姉さん？」

「麻雀は、楽しいか」

「・・・ああ、楽しいよ」

「これからも続けていくのか？」

「・・・何が言いたいのか？」

「いや、来年は何処に進学するのかと思ってな。もしアテがないなら臨海女子に来るといい。お前程の実力があれば麻雀の特待で入れるだろう」

「・・・いや、臨海女子には、行かないよ」

「・・・理由を聞こう」

「私は、姉さんを倒したいから」

---

私は辻垣内葵。中学3年。と言ってもももつすぐ卒業式なんだけど。日本人特有の黒髪を後ろで一本に結っている。いわゆるポニーテールというやつだ。姉さんと違って眼鏡はかけていない。特に目も悪くない。趣味は麻雀、特技は麻雀。自慢じゃないが私は麻雀が強

いと思っっている。

『自分が最強だと思え。 そうでなければ一步も前に進めないからな』

そう、姉さんに言われた。

『なにカッコつけた事言ってるの。 似合ってないよ』

と言ってやりたいが妹の立場でそんなことを言ってしまえばどうなるか考えるだけで血の気が引く。

と言っても未だに姉さんに麻雀で勝てる気はしないが。

半年前に姉さんに聞かれた。「臨海女子に来ないのか」と。

私は断った。 姉さんの事が嫌いな訳じゃない。 姉さんと一緒に闘いたい。 仲間として高校生の頂点に立ちたい。

でも、姉さんの敵として闘いたい気持ちの方が強かった。

今まで一度も勝てなかった。 ギリギリまで持ち込む事も出来なかった。 全ての対局が圧倒的な力でねじ伏せられた。

そんな姉さんは私の憧れであり、最高の敵でもあった。 姉さんに追いつきたい。 姉さんの隣に並びたい。 いつの間にか麻雀の楽しさを忘れてそんな一心で麻雀を打っていたのかもしれない。

「どうしたんでスカ、アオイ。 考え事とは珍しいじゃないでスカ。」

「あ、ダヴァンさん。 お久しぶりです。」

Megan Davin    メガン    ダヴァンさん。 私の一つ上で姉さんと同じ年の高校2年生。 臨海女子高校の副将で、去年はインターハイにも出場し、大活躍だった。

でも当の本人はどこだっけか、龍なんとか高校の副将相手に逃げてしまったのが唯一の屈辱だとか。まあ姉さんがなんか言ったみたいで私にはよくわかんないけど。

「ところで、一体何を考えていたのでスカ？」

「ああ、半年くらい前に姉さんに進路のことを聞かれてたのを思い出してまして。」

「オヤ？結局アオイは臨海女子に進学するのでスカ？」

「いや、長野の方の高校に進学する事に決めました。私は姉さんと一緒に戦うより、姉さんと闘う方がいいので。」

「それでスカ…残念でスネ…。」

「え、えっと、何かすいません…。」

「イエイエ、私はアオイが好きな道に進んでくれればそれで十分です。インターハイでアオイと打てるのを楽しみにしていマス！」

「ありがとうございます…。」

多分副将はやらないと思うけどなあ…言わない方がいいよね、うん。

まあ姉さんが先鋒やるなら先鋒だし姉さんが大将やるなら大将だな。

「まあ何処であるつと麻雀を本気で打つと言う信念だけはブレないと思いつたでそんなことよくしてくお願いします。」

「オーケー！私もビリョクながらアオイを応援させて頂きマス！」

「はい！ダヴァンさん、インターハイで『会っ』の楽しみにしています  
」！

『会っ』を強調してみた。が、

「イエス！私もアオイと『打っ』の楽しみにしてマス！」

…どうやら無意味だったばいね

「え、えっと、そろそろ荷物もまとめなきゃいけないんで、この辺で失礼しますね」

「分かりませタ！頑張って下さいネ！」

こうして私の、姉さんを倒す為『だけ』の学園生活が始まるつとじてた。

まああくまで私の目標は姉さんを倒すことだけ。

仲間も。練習も。友情も。

そんなもの必要ないよね

# 第一話 【流れ】

Side 葵

あれから数日、私は長野のとある高校の麻雀部部室にいた。

「ツモ。20000・40000。」

葵 手牌

〇二三四「五」六222678      〇〇七〇

「ロン。9600は9900。」

葵 手牌

〇二三四四五「五」      335「5」北〇北〇

「.:.:すすすす」

ダヴァンさんと話してから数週間私は無事に長野の風越女子に入学した。名門って言われてるらしいけどなんと去年は県予選で敗退したらしい。どうせなら去年優勝した学校行けばよかったかなあ..:。

まあどこの高校でもそうだろうけどやはり一年生相手は手応えが無い。はやく先輩に認められたいもんだ。

そうこう考える内に他の1年生との次の半荘が始まった。

「よろしくお願いします。」

東 女子生徒A 25000

南 辻垣内 葵 25000

西 広部 美世 25000

北 女子生徒B 25000

東一局 ドラ 1

葵 配牌

1357 23[5]78

(かなりの好配牌。タンヤオ三色？安い方引く可能性高い。とりあえず平和手を中心として組む。)

1357 23[5]78

(こんな素直に引いてくるなんて…。もしかして345より567とか？とりあえず両天秤にかけよう。この順目なら頭は後で何とかなる！とりあえずはこっち！)

葵 打 1

1357 234[5]78

(んん？もしかして三色より一通？そしたら頭崩したのは大失敗だ。

そしたらもついつそ、は嫌ってしまおう。引きしか裏目は無いし。)

葵 打 }

〆三五七 1 2 3 4 「5 「7 8 }

(うんうん旨味。この引き方を待ってたんだ。とりあえず萬子を払おうかな？もし嵌張埋まったらタンヤオ移行ってことぞ。)

葵 打 }

6 巡後

〆 1 2 3 4 「5 「7 8 9 }

(よし、予想通りのテンパイ。)

女子生徒A 捨て牌

〆西北 西九1 }

〆一三 }

女子生徒B 捨て牌

〆1 七東発 }

〆発3 }

広部 美世 捨て牌

〆八四西発8東 }



「一二中」

（西家の捨て牌がちょっと奇妙だけど…テンパってる感じは無いし…の壁もあるし…ここはどうか考えても即リーだよね。）

葵 打

「リーチ」

「ロン」

（え…？七対子？）

「タンヤオ三色赤赤、80000です。」

美世 手牌

「五」六七」 234567

（りゃ、単騎！の壁を利用しての狙い撃ち？いや、私は私が一枚持つてるんだ、相手には三枚しか見えてない。いや、それでも一枚壁つてことも…いや、それなら普通リーチをかけるでしょ。どうしてなの…？タンヤオを消して字牌単騎にしても同じ満貫のはず…。もしかして…。）

東二局 ドラ

北 女子生徒A 25000

東 辻垣内 葵 17000

南 広部 美世 33000

西 女子生徒B 25000

(私を狙い撃った!?)

葵 配牌

〇 五八九七七九西西北発

(ひどい配牌……。満貫振っただけで今日これまでの流れを全部失った!?!私の流れは所詮ハリボテだって言うの?)

5巡後

葵 手牌

〇 一二三八九七七九西西西

(あぶれる形になるまで5巡。やっぱりまだ流れを失いきって無いのかな?だったらここはもう一直線!!)

葵 打

葵 ツモ

葵 打

葵 ツモ

葵 打 っ っ

っ 一二三八九七八九 西西西 っ

(よし！三色ついて満貫確定！しかも親！このままリーチツモって跳満待った無し！)

4 巡後

(テンパイ…できない…。リーチはおろか鳴くチャンスすら無いなんて…。やっぱり思わせぶりの流れ無し？そりゃ酷いわ神様…。)

女子生徒A 打 っ っ

(うっ!!鳴く…この手を？門前でツモれば親ツパネをたったの2900で我慢するの?)

「え、えっと、ツモらないんですか？」

ロンされると思ったのかおどおどしながら女子生徒Aが質問する。

(うるさいよ、今必死に考えてるのよ、邪魔しないで。)

「すみません、チーします。」

(結局チーしてしまった…。悪い流れを変えられたのが良い流れを変えてしまったのか…。こういう中途半端なのがやっぱり一番困るのよねー。)

美世 打 っ っ

(あっ…)

「ロ、ロン、です。2900。」

(やらかした)

(こいつの… これはツモ切り。つまり私が悪い流れに焦って鳴かなければ門前テンパイでリーチがかかってた…?)

「失礼。」

(まさかとは思うが鳴かなかった場合の私の次のツモって…)

六七

(それはちょっと残酷すぎるよ、神様。)

東二局 一本場 ドラ 六

八巡目

葵 手牌

二三四四四四五六

六七

(さつき馬鹿アガリをしたのに案外手が高い?どうゆうこと?うーん、私もまだ流れを完全に理解しきれてないってことなのかなあ。)

葵 打 〆6 }

葵 ツモ 〆5 }

(うっ。)

(これはもしかして456の三色やねってことだったのかなあ。…。やっぱり流れは良くないなあ。)

葵 打 〆5 }

葵 ツモ 〆6 }

(いやいや。…それはちょっと流石に。…私牌に弄ばれてる?)

葵 打 〆6 }

葵 ツモ 〆西 }

葵 打 〆西 }

葵 ツモ 〆2 }

葵 打 〆2 }

葵 ツモ 〆四 }

(色々あったけど一応すんなりテンパイしちゃうのね。)

葵 打 〔4〕

「リーチ」

葵 捨て牌

〔東南1九八〕

〔9北 656〕

〔西2横4〕

美世 打 〔6〕

女子生徒B 打 〔9〕

女子生徒A 打 〔5〕

(二人は中抜きしてベタオリ? まあそっちの方がツモりやすくっていいんだけど)

(さあ来い一発!!)

気合を込めて一発で引いた牌は、

見ずともわかった

何も刻まれていないぬるっとした、

葵 打 〔白〕

「ロン」

美世 手牌

「 五六七白」

「一通ドラ赤。8000は8300です。」

(うう……………ぐう。)

(何なのそのアガリ…。ただ単に親リー相手に生牌の白が切れなかっただけ？絶対違うわよね、それ。しかもこいつまた単騎待ち!?どれだけ狙い撃つのが好きなのよ…。嫌な趣味してるじゃない。)

(実際問題こいつはかなり強い！まあ姉さんには遠く及ばないけど、少なくとも私と互角か、それ以上！)

東三局 9巡目 ドラ 南

「ロン、チャンタニ色ドラドラ、18000です。」

美世 手牌

「123789 南 南」

東三局 一本場 6巡目 ドラ 八

「ロン、タンヤオドラ赤。5800は6100。」

美世 手牌

六 2 3 4 「 5 」 6 7 8      六 七 八 2

（今度はスピード勝負？どちらにせよ地運が無い今は追いつけない。  
されるがままってところね。）

（ん……？）

ふと、気づく。

（こいつ、もしかして…）

（いや、まだ決めつけるのは早いかな……？もう少し見てみる必要  
が…。）

東三局 二本場 ドラ 六

「リーチです。」

美世 捨て牌

六 三 八 六 2

六 4 7 横赤

（まだ確定したわけじゃないけど…。）



(こいつは【絶対に牌が重ならない】異能者!!)

(必ずこいつの手牌には頭が無い、そして捨て牌と手牌を合わせても重なってる牌は一つも無い。)

(そして今回の捨て牌だとう捻っても四面子がつくれぬい。)

女子生徒B 打 西

(つまりこの手)

「ロン」

六一九 19 東南西北白発中

「148000は、486000です。」

(入学早々、面白い奴に出会えたよ、姉さん。)

## 第二話 【慢心】

風越女子高校麻雀部新入生歓迎戦

「ーもとより、全て勝つつもりだった。先輩方になら一年生に負けるとは思ってなかった……。いや、少し慢心しすぎていた？東京では身内ばかりで打って勝っていたから自分が上だと錯覚していたっていうの……。？私は今まで異能者とも戦ってきた……。だけどこいつの異能はー。」

「ありがとうございます。良い対局でしたよ、『辻垣内』さん。」

薄く茶色がかかった黒髪を肩の辺りまで伸ばした少女が、この対局で1位だった少女が話かけてきた。

「ー『辻垣内』、か。」

（別に姉さんと比べられるとかそういうのは全く気にしないんだけど。）

（姉さんの顔に泥を塗ってる感じの罪悪感が心を埋め尽くす。）

「ーいえ、こちらこそ。良い対局でした。えつとー」

「広部です。広部 美世、美しい世界で美世です。」

「良い対局でした、広部さん。色々と参考になりましたよ。」

「それって、もしかしてー」

「皆さん、少し静かにしてください。」

(あれはー。)

風越女子3年福路美穂子。風越のキャプテンの上に去年は個人戦で全国にも行き、団体戦では副将だったっけ。なんでも手牌読みの達人だとか。

「ここまで打ってもらった新入生の皆さんの中で、上位成績の方は、2、3年生と対局してもらいます。対局メンバーの調整をさせて頂きますので、これより10分の休憩ととります。10分後に卓ごとにメンバーを発表するので、それに従って卓についてください。」

(ー多分、打てるかな？1回3位引いたとはいえ他は2位かトップ。1年全体なら上位に入ってるはず。っと。)

「そだ、広部さん。さっき何か言おうとしてませんでした？」

「え？ああ、いやもしかしてもう見破られてるのかなーって。あたしの麻雀が。」

「……大体予想はしてましたけど確信はありません。答えを知らずに絶対するのはありえないので。」

「いや、お察しの通りだと思いますよ。絶対に【牌が重ならない】。そう思ってたんじゃないですか？」

「……まったくその通りです。手の組み方自体はおかしくないので待ち牌だけが必ずおかしい。終わってから考えるとあの……切り

も私の【流れ】を崩す為に振ったんじゃないですか？」

「……いや、あたしはあまり流れは信じない主義なので。」

【普通じゃない打ち方】をするのに流れを信じないって言うのもあまり聞かない話ですけど」

「いやあ、」といつ打ち方になってしまったのもあたしの父親が変な」と言いつからなんですよ。」

「父親が？」

『俺は流れを信じない。だから確立は平等であるべき。だから全ての牌は全員に1枚ずつ回る。』って。とんだトンデモ理論ですよね。」

「……その父親の話が現実になったのがあなたの打ち方って訳ですか……。面白い話ですね。」

「……だからあたしは【牌に愛された子】じゃないんです。運も並です。宮永照や、神代小時、荒川憩みたいには、なれない。」

「……私は、異能も無いし牌に愛されてもいません。ただ人よりちょっと運が良いだけです。」

(そう、所詮そこ止まり。一般人には勝って異能者には勝てない。今日はつきりした。私は所詮全体で見ると中の下だと。)

(姉さん、すみません。流石にこれ以上慢心できないかもしれないです。)

「ー え？」

「はい？」

「異能も何も、無いんですか？」

「え……？」

何故ここで戸惑ってしまったのか。「自分は異能なんてあるわけ無い」とはつきり言っていてやれば良かったんだ。

「いや、あつたらこんな無様に負けませんよ……？」

「いや、あるんじゃないですか？」

「はあ？」

(怒声の様なものでは無く半分呆れた様な言い方だった。そちらが大差で負かせた癖に何を言っているんだろうと思いつつ。)

「……………じゃあもしあつたらどんなだつて言うんですか？」

「？【流れ】じゃないですか？」

「……………」

(流れってというのはー異能なんかじゃない。ただ、その場に身を委ねるだけ。悪い言い方をすれば考える事を放棄する【逃げ】。良く言えばその先々を読む【直感】。他にも過去の経験と重なったりしたらその通りにするとか、前局この牌で和了られたからこれは切れないと

か。サイコロ振って6が3連続で出れば「これは6の流れだ」と言っ  
て6を予想する人と「6の流れはもう無い」といって6以外を予想す  
る人。つまり、同じ状況でも人によって捉え方が違う。だから正解は  
無い。だからー)

「ー流れを信じることなんて誰でもできます。私の場合、持ち合わせ  
の運でそれが上手くいっただけの事です。」

「もうちょっと自分を強く見た方がいいんじゃないですか？」

「ーえ？」

(ー あれ?)

(私は私自信を強く思ってた。姉さんにそう言われた！それなのに何  
故一回負けてしまっただけでこんな弱気になってしまっの!?)

(私の夢は、目標は、こんなところで止まっていいもんじゃない!!)

(姉さんを見習え!!心を、強く持て!!)

(私はー 辻垣内!!)

(決めたんだ!!姉さんを倒すって!!だったらこんなところでシヨゲて  
る暇なんか無いでしょ!!)

「っーありがとうございます広部さん。お陰で何か吹っ切れました。」

「いえいえ、そんな大したことしたつもり無いけどお役に立てたなら嬉しい。あと、美世でいいよ。敬語も、ナシで。」

「ー ありがとう、美世。」

「10分間の休憩が終わりましたので、全学年交流戦を始めたいと思います。今からそれぞれの卓のメンバーを発表するのでそれに従ってー

(どうも私達は先輩方に気に入られちゃったのかな？ よりにもよってこの面子だなんて…。)

東 3年 福路美穂子

「よろしくお願いします。」

南 1年 広部美世

「…よろしくお願いします。」

西 2年 池田華菜

「よろしくだしー！」

北 1年 辻垣内葵

「よろしくお願いします。」

(この卓、絶対に一筋縄にはいかない。：。)

東一局 親 美穂子 ドラ 6巡目

「リーチだし！」

華菜 捨て牌

〔東発六 西横〕

華菜 手牌

〔 五六七56788〕

「ツモだし！」

〔 五六七56788〕

「リーチ一発ツモタンピン三色ドラ1！倍満！4000・8000！」

(いきなり倍満スタートか。：。大量失点したとはいえ1年でレギュラーをとっただけはある。だが所詮は豪運。そういうタイプは【流れ】を失えばいとも簡単に崩れる。)

福路美穂子 17000(18000)

広部美世 21000(14000)



池田華菜 41000 (+16000)  
辻垣内葵 21000 (-14000)

東二局 親 美世 ドラ 東 11巡目

美世 捨て牌

341 75

西白横東

池田 手牌

2244「5」5677東白白西 東

(字牌と萬子抱えてオリようと思ったけどドラえ東ツモってきたんなら話は別だし！)

(赤一枚でダメでも倍満あるからここは親リーの現張り！流石にあの捨て牌に6は通る！)

池田 打 6

「ロンです。」

「……………え？」

美世 手牌

1123456789 6

「リーチ一通…裏二つで親マン、12000です。」

(な、なんだその手!? 一体どんな配牌から組んでるんだ!)

福路美穂子	17000		
広部美世	33000	(+)	12000
池田華菜	29000	(-)	12000
辻垣内葵	21000		

東二局 一本場 親 美世 ドラ }二}

葵 配牌

三 345南南南西北白中 }

(うーん? 染め手? ちょっと違うよう気もするんだけどなあ。)

葵 ツモ }北 }

(重なる字牌が役牌じゃないって…嫌がらせか。)

葵 打 } }

葵 ツモ }赤五 }

(いや、これは三色か? とりあえず字牌はもう整理してしまおう。)

葵 打 }中 }

「ポンだしー!」

池田 打 }南 }

(鳴かれた?この鳴きで混一と三色の両天秤からどちらかに落ちる  
!)

葵 ツモ ㇰ ㇰ

(三色ね?オーケーオーケー。)

葵 打 ㇰ白ㇰ

「それもポンだし!」

池田 打 ㇰ七ㇰ

(うっ…げえ…急にあの手が恐ろしくなったよ…。まあ先に  
和了れば問題ナシ!)

葵 ツモ ㇰ四ㇰ

(無駄ツモ無しの一直線!!ナイス鳴き!!)

葵 打 ㇰ西ㇰ

「リーチ!」

(これは一発だ…絶対につ…!)

(引けるっ!!この流れなら!!)

葵 ツモ っ }

(う、わ……………。)

(一発だけど…これは…)

(満貫止まり…………。)

(いや、無和了なんだ。ここは何でもいいから和了って流れをこっちに傾ける!!)

(いや…)

(…牌がツモるなど言っている…。ここで和了るなど…!!)

(そのままっ…切れとっ…!!)

(…満貫程度で満足するなよ、辻垣内葵!!!)

タアン

葵 打 っ }

(私の麻雀は、こんなもんじゃ終わらせない。)

(怖がらない。和了れる時に和了れば流れは良くなるもんじゃ無い!!!)

葵 ツモ 〆 }

その局のー

葵 打 〆 }

最高の結果を目指す!!

葵 ツモ 〆 南 }

「カンッ!!」

新ドラ 〆 北 }

「ツモッ!!」

葵 手牌

〔三四〕〔五〕345

北北〔

〕裏南南裏〔

〕

〕

「リーチリンシャンツモニ色赤↑ドラドラッ!!」

「これが、あたしのー

」41000・81000!!」

辻垣内の、麻雀だ!